

海洋研究所

I	研究水準	研究 25-2
II	質の向上度	研究 25-3

Ⅰ 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度は、教員一名当たり年間平均 6.3 件の研究論文を公表している。その 63%は国際誌に掲載され、学際性・国際性を反映し、原著論文の 71～76%が国内共同研究者、27%が国外研究者との共著論文である。毎年 2～3 名の学術賞受賞者を出し、研究成果は、マスコミにも取り上げられるなど社会的注目度も高く、海洋科学の発展に大いに貢献している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金をはじめとする外部資金は、総額で 6 億円程度であり、教員一名当たり約 1,000 万円を獲得している。科学研究費補助金の採択率も 63%であり、大型研究としての学術創成研究費も獲得している。さらに、研究活動を通じた社会への貢献を進め、産学連携研究を積極的に導入していることなどは、優れた成果であることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、共同利用・共同研究の実施状況については、全国共同利用施設の特色を活かし、国内外の研究機関と積極的に共同研究を進めている。国外では、カリフォルニア大学サンフランシスコ校及びハワイ大学との大学間協定、ウツボホール海洋研究所、国連大学、釜慶大学、インド国立海洋研究所、セントアンドリュース大学との部局間交流をはじめ、多くの国際プロジェクトにも参加して指導的役割を果たしている。その成果は、学術研究船の利用状況や共著論文に反映されているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

特に、海洋科学の多様な分野で最先端の研究を行い、その評価は研究論文の質及び数、科学研究費補助金及び外部資金の獲得数と額に見られ、研究成果はマスコミにも取り上げられ社会的注目度も高く、海洋科学の発展に大いに貢献しているという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、海洋研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、海洋研究所が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、固体地球惑星物理学、動物行動・生理、水産学一般の各分野の境界領域において、先端的な研究成果が数多く生まれている。卓越した研究成果として、地震波の伝わりを基にした大地震発生時の重力変化の検出、火山の噴火が海洋生態系に与える影響の解明、海洋鉄散布実験による海洋の二酸化炭素吸収性、気候変動に重要な要素である深層循環の定量的評価があり、国際的に高い評価の成果を上げている。また、鉱物のウラン-鉛年代測定法や反射法地震探査の手法を用いた海水中塩分温度微細構造の水平2次元断面での把握、世界の海をめぐる深層循環、西太平洋の特異な海底熱水系、マグロの水温躍層を超えた鉛直移動に関する研究等、優れた研究業績を上げている。社会、経済、文化面では、水生動物に関する研究において卓越した研究業績が多いことに特徴があり、水生動物の遊泳速度に関する研究やウナギの産卵場所の特定、火山噴火が海洋生態系に及ぼす影響等、学術面のみならず社会的に有用性の高い成果を上げている。また、過去4年間の研究成果によって、国際学会賞2件、国内学会賞18件を受賞していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、海洋研究所の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、海洋研究所が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。